

CLF

同志社大学 学習支援・教育開発センターレポート REPORT

Center for Learning support and
Faculty development report

Vol.

36

2025.3

CONTENTS

ページ

- 02 開催報告
 新任教員研修会
 TA研修会
 FD研修会
- 03 学部・研究科・センター等FD活動報告
 (政策学部、グローバル地域文化学部、グローバル・スタディーズ研究科)
- 04 2024年度部会活動報告
 教育方法・教材開発費制度について
 教育開発調査活動費について
- 05 学外企画参加報告
 大学入学準備講座
- 06 2024年度学生調査報告
- 08 ラーニング・commons運営状況
- 12 Column 「進化する学習の場」

学習支援・教育開発センター設置の趣旨

本センターは、本学における全学的な学習支援施策の企画及び実施、
全学的な教育施策の企画及び開発、
教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、
大学教育の充実と発展に寄与することを目的として設置されています。

開催報告

新任教員研修会

本学教員として教育・研究活動に従事するうえで、理解しておいていただきたい事項の認識を深めることを目的として、毎年度新任教員研修会を実施しています。

2024年度は、新任教員約50名の参加がありました。また、後日オンデマンド配信も行いました。

日時 2024年4月2日(火) 13:00~16:35

場所 良心館103教室



新任教員研修会

内容

各所管の機構長、所長等から各内容について説明していただきました。

- ①ガバナンス、意思決定の仕組み
- ②キリスト教主義
- ③教育活動
- ④グローバル化の取組
- ⑤学生支援体制
- ⑥研究活動
- ⑦入学試験業務
- ⑧教育・研究倫理

受講者の声 (終了後アンケート結果より一部抜粋)

大学全体の構造や各部署の仕組みがよく理解できた。

キリスト教主義はどのように教育現場で体现されるか理解できた。

FD等について詳しく知れたので良かった。

国際主義の発露としてのグローバル化について知ることができた。

学生が困難な状況にある場合に紹介できるサポート体制を知ることができて安心した。

研究費等について詳しく知れたので良かった。

オープンキャンパスなどの活動も含め、広義の入試の重要性が理解できた。

研究倫理について再度確認することができて良かった。

同志社大学の一員になる自覚を強く持つことができた。

FD研修会

2024年度は本学教職員を対象としたFD研修会を以下のとおり実施しました。

生成AIと電子教科書を援用した全学DS教育の試み

「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」で行われている、生成AI活用実証事業についての取り組みを報告していただきました。

日時 2025年2月26日(水) 13:00~14:10

講師 宿久洋先生(文化情報学部教授)

開催場所 対面:情報メディア館401教室
オンライン:Zoomによるリアルタイム配信
※後日オンデマンド配信



新学年におけるオンデマンド授業の工夫

今年度から導入された新たな学年における180分のオンデマンド授業を、先生方がそれぞれどのように利用・活用されているかを報告していただきました。

タイトル 全学共通外国語教育科目におけるオンデマンド講義の活用事例

配信期間 2025年2月20日(木)~2026年3月31日(火) 予定

講師 伊藤 玄吾先生(グローバル地域文化学部准教授)
水谷 智先生(グローバル地域文化学部教授)
小野 文生先生(グローバル地域文化学部教授)
見原 礼子先生(グローバル地域文化学部准教授)

開催 オンデマンド配信

宇佐見 耕一先生(グローバル地域文化学部教授)
中野 幸男先生(グローバル地域文化学部准教授)
コ ヨンジン先生(グローバル地域文化学部教授)
向 正樹先生(グローバル地域文化学部准教授)



TA研修会

ティーチング・アシスタント（TA）に任用される大学院生を対象として、TA 制度の定義・目的、TA の業務内容、心得、キャンパス・ハラスメントの防止、TA の事務手続き等について説明する研修会を 2011 年度より実施しています。

2024 年度は昨年度に引き続きオンデマンド配信にて実施しました。



TA研修会の様子(文系研究科向け)



TA研修会の様子(理系研究科向け)

研修会動画・資料は以下サイトで公開しています。

TA研修会 <https://clf.doshisha.ac.jp/clf/ta/ta.html>

学部・研究科・センター等FD活動報告

政策学部

政策学部では、従来から少人数教育の徹底と社会科学横断的な学習を教育面の特色としてきた。それを発展・強化するために、2024 年度から新カリキュラムがスタートし、FD 活動も新カリキュラムの準備や改善に関係するものが多かった。具体的には、全教員を対象とした FD 研修会を開き、新旧のカリキュラムツリーの共通理解を促した。また、主任による 3 回の FD 委員会では、基礎能力養成科目・オリエンテーション科目についての教員アンケートや新入生に対する入学時調査に基づき、教育課題や改善策を議論した。たとえばアカデミック・スキルⅠは以前からあった少人数科目であるが、新カリキュラムではすべての学生に定量・定性分析を身につけさせるための必修科目に変更された。科目を前半と後半に分けて 2 名の教員で担当するユニークな運営方法が取られたが、授業内容の共通化などの課題があり次年度に向けて改善を進めようとしている。

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学部では、カリキュラム検討／FD 委員会を組織し、授業科目のカリキュラムや教育内容・方法について定期的に議論し、改善方法を検討している。その際の資料とするため、1 年次生と 3 年次生を対象に毎年学部独自のアンケート調査を行っている。委員会では、現行カリキュラムについての議論と併せて、アンケートがカリキュラム改善につながるかどうかの検討も行っている。これまで回収率の低さが課題となっていたことから、今年度からアンケート内容を大幅に変更し、回答しやすい形式に整えた。

また 7 月に FD 研修会を開催した。2022 年度の研修会から学部のコンセプトを共有することを目的として、学部における指導や方向性について意見交換を行ってきた。2024 年度は卒論指導および評価のあり方について、教員同士で話し合った。そこで出された意見を集約し「卒業論文審査方法の申し合わせ」の修正に向けた検討を委員会で行っているところである。

グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ研究科（以下、GS 研究科）は多様な地域・国家から多くの留学生を受け入れ、彼女・かれらの分野横断的な研究指導を行ってきた。そのなかで、グローバルな生成 AI の発展は、学生の学びにも両義的な影響を与えるようになっている。そこで、人文・社会科学系教員のみが所属する GS 研究科において、生成 AI のもつ教育的な可能性と学術上の危険性を学び、今後の教育研究にもその知識を活かしていくという趣旨で、2024 年 9 月 3 日の教授会にて全員参加の下で「生成 AI とはなにか」をテーマに 1 時間の FD 活動を行った。

講師には、本学文化情報学部・河瀬彰宏准教授をお招きし、生成 AI が発展してきた歴史と、研究活動に与える可能性とその限界を学んだ。論文執筆にあたり、教員よりもおそらく学生が多く触れる生成 AI の「正しい活用法」や研究倫理を明示、共有していく重要性を GS 研究科の課題として確認した。

2024年度部会活動報告

FD支援部会

●設置の趣旨

教育内容、授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置しています。

●活動報告

授業におけるグッドプラクティスの全学的共有について議論しました。2024年度から開始された新たな学年暦において実施される授業での工夫や取組みに関して、情報収集及び情報共有の方法について意見交換しました。また、教員の教育面を評価する評価制度の導入についても意見を伺いました。部会委員からは、自身の担当授業や所属学部における授業での工夫や取組みについて情報提供があり、それらの取組み内容の中からいくつかの事例を取り上げ、FD研修会として全学的に共有する運びとなりました。

次に、学生調査の見直しについて検討を行いました。具体的な見直し内容は、大きく4点あります。1点目は質問項目の統一、2点目は質問項目の見直し及び項目数の削減、3点目は集計・分析にあたっての視点の見直し、4点目は無効票の見直しです。これらのうち、4点目の無効票の見直しについては特に異議はありませんでしたが、その他の3点については、見直すことそのものへの異議はなかったものの、見直しを進めるにあたって留意すべき点等様々な意見がありました。それらの意見を踏まえ、本件の考え方について改めて整理をした上で、今後の検討を進めることが承認されました。

また、2025年度「教育方法・教材開発費」への申請について審査を行いました。

学習支援検討部会

●設置の趣旨

本学における学習支援活動および学習支援環境(ラーニング・コモンズ等)の運営方法を検討することを目的として設置されています。

●活動報告

本部会の下にワーキンググループを立ち上げ、ラーニング・コモンズ(以下、LC)の人員体制について検討し、その検討結果について部会で審議を行いました。

また、LCの入室者、各エリアの利用者数、学習相談件数、学習支援コンテンツへのアクセス状況、アカデミックスキルセミナーの開催状況等について報告しました。

今年度は、LCの座席不足を改善するため、今出川キャンパスの良心館LC2階のグローバルビレッジ南側を改修し、新たに40席を増設しました。京田辺キャンパスのラーネッド記念図書館LCについては、ラウンジエリアにあったソファを撤去の上、新たに座席を24席増設しました。昨年度、新町キャンパスの新創館1階に開室した学習スペース「アカデミックプラザ」については、学生の利用も定着し、様々なイベントでも活発に利用されています。

学習相談件数については、ラーネッド記念図書館LCでの相談件数が昨年度より減少しましたが、適宜見直しを行いながら、両校地LCにおいて引き続き安定的でより良い学習環境を提供できるよう努めます。

教育方法・教材開発費制度について

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を補助する「教育方法・教材開発費制度」を設置し、毎年度秋学期に次年度の開発費の申請を受け付けています。

申請区分には、より多くの教員の教育改善に向けた取り組みを奨励することを目的とするA区分と、将来的に全学または学部・学科・研究科・センターレベルの教育改善に波及効果が期待できる取組を支援することを目的とするB区分があります。

2025年度はこの制度を利用して以下の取組が行われます。

| 区分 | 開発テーマ | 申請者 |
|-----|-------------------------------|---|
| A区分 | 初年度教育におけるAI教育の導入を目的としたテキストの作成 | (経済学部) 井原 悠至・太田 直希・李 翔宇 |
| A区分 | 大学生がつくる世界遺産から学ぶ世界史教材 | (グローバル地域文化学部) 向 正樹 |
| B区分 | 「授業内容等の文字化」スキームの構築 | (法学部) 川崎 友巳・梶山 玉香 (文化情報学部) 阪田 真己子 (文学部) 植木 朝子 (グローバル・コミュニケーション学部) Bettina GILDENHARD |

本制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

教育方法・教材開発費制度

<https://clf.doshisha.ac.jp/clf/support/development/materials.html>

同志社大学オープンコースウェア

<https://clf.doshisha.ac.jp/clf/opencourse/opencourse.html>

教育開発調査活動費制度について

本学の教育の質的向上のための積極的な調査活動を支援するために、専任教職員を対象として、教育開発に関する各種学外企画の参加に必要な旅費・参加費等の費用補助を行う制度を設けています。補助対象となる催しは、同志社大学ポータル及び本センターホームページで案内しています。

教育開発調査活動費制度

<https://clf.doshisha.ac.jp/clf/support/action.html>

学外機関主催研究会・研修会

<https://clf.doshisha.ac.jp/clf/research/research.html>

学外企画参加報告

上智・関西学院 合同IRワークショップ(2024年7月6日)
報告者:企画課 池口真梨子

本学では、1995年から「基礎データ集」を作成し、各部課でも多様なデータを所持しているが、その連携や活用には課題がある。また内部質保証の確立や学習成果の可視化において、IR業務への理解を深めることは重要である。長くIRや学生調査に取り組んできた両大学の事例報告や質疑応答を通して、IR業務の実務的な課題を確認し、本学での課題解決の糸口を探るため、本ワークショップに参加した。

IR業務では、様々なデータを学生IDで紐づけ、集計・分析することが肝となる。まず、データ収集のために中長期計画の中でデータ収集の方針を盛り込み、それを根拠として制度等を整備し、データを収集することが重要である。それを分析に利用するためには、データ整形や前処理に8割以上の時間を割くとのことである。実情は、データレイクに全データが自動的に入るのではなく、提供部署に負担がないようにそのままのデータ(例えばエクセル等)での提供を依頼し、IR推進室で使える形に整備するようだ。現行の仕組が整うまで、特定の人物が10年を費やしてデータ等を整備したとのことであった。また、担当者はIRに関する専門知識を持つことに加えて自校の課題や社会情勢も理解した上で、他部署とコミュニケーションを取り、有用な結果として返す役割がある。特に学生調査については、分析したデータを学生や学外の人にも直感的に伝わるように可視化することが求められる。ポータルサイトで公開しているが、調査の回答率や結果の閲覧率に課題があり、正門前や目につく場所に大々的に貼り出し、強制的に見せることで調査の存在を示して回答率向上のために改善を図っているとのことであった。

今回のワークショップから得た情報を含めた全般的な考察だが、IR推進室を設置することについては、十分に検討する必要がある。IR推進室は一元的にデータを握り、その集計や分析を行い、ストーリーもその中で作る。それは大学全体の教学やその他の運営方針も左右し、影響力や権力への過剰反応により分析結果が恣意的なものではないかという危惧を抱かせることもある。また、データの収集や分析を実務として行うのは職員であり(質疑でも職員の方が最適とのこと)、専門性も高いため異動の課題もある。例えば、執行部の方針変更等により、コア人材が異動になる等、意図的な弱体化によりうまく機能しなくなる例も聞く。この課題を解決する形でIRを推進するには、中長期計画で明確なビジョンを決定して、その実現に向けたデータ活用を前提とすること、各教職員が目的遂行のために一定程度のデータ分析と分析結果のストーリー構成を考えることができることが重要で、その前提となるデータ収集及び整備は必須である。

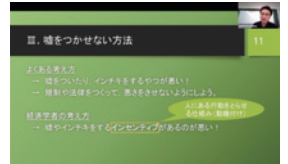
大学入学準備講座

高校生を対象に、大学における必要な学カレベルを知ってもらうこと、正しい学部選択の機会を与えることを目的とし、「大学入学準備講座」を開講しています。本学教員がそれぞれの専門分野で扱う学問の内容から高校生が興味を持ちそうなテーマを選んで、大学で実際に行われる授業と同じ形式で高校生に講義を行っています。

2024年は対面とオンデマンドで開催し、対面の講座には357校から、オンデマンドの講座には284校からの申込がありました。



対面講義の様子



オンデマンド講義の様子

講座一覧

- 講座A1(文化情報学部) ロボットは「心のよりどころ」になれるか?
- 講座A2(生命医科学部) 脳が音を創って聞く仕組みを知り、脳補聴器を開発する
- 講座A3(スポーツ健康科学部) スポーツ・運動をする「身体」を知ろう
—外から知る・中身を知る—
- 講座A4(社会学部) 労働時間規制の根拠:長時間労働の何が問題か?
- 講座A5(グローバル地域文化学部) 多民族国家ロシアの歴史と現在
- 講座A6(商学部) 企業経営を経済学×データ分析のレンズでのぞいてみよう
- 講座A7(法学部) 表現の自由について考える —ヘイト・スピーチを素材として
- 講座B1(神学部) イエス・キリストの実像に迫る
- 講座B2(文学部) 哲学無用論
- 講座B3(経済学部) インセンティブの経済学 —騙されない、騙させない人になるために—
- 講座B4(政策学部) 政策学部で学ぶこと —環境問題を例にして—
- 講座B5(理工学部) 化学における「ものづくり」〜分子に機能を持たせるワザ〜
- 講座B6(心理学部) 意外といい加減なわたしたちのころ
- 講座B7(グローバル・コミュニケーション学部) Communicative skills in French
[笑顔で真面目にフランス語]

A1~A7:対面講義
B1~B7:オンデマンド講義

受講者の声 (対面参加者分より)

指定校を考えており受講してみましたが、やっぱりこの学部に入りたいたいなと意思を固めることができました。

実際に大学の授業を受けて、もっと勉強ががんばろうと思った。

研究について触れることがなかったので、自分が大学に入った時にすることがこういうことなのかな、とイメージがつけられてとても良かったです。

難しい内容だが例などを交えて解説して下さったので理解しやすかった。

普段受けている高校の授業とは違って、1つのテーマを深く考え色々な面から理解を深めていく授業スタイルが凄いなと体験して思いました。

普段の授業が短いため長く感じたが、内容が詰まっていたので有意義な時間だった。

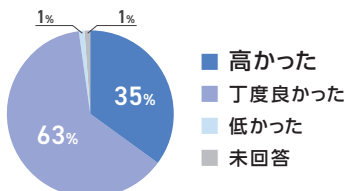
レベルが高く感じたけど、興味のある分野について学べて楽しかったです。

各講義の概要等、詳細を掲載しています。

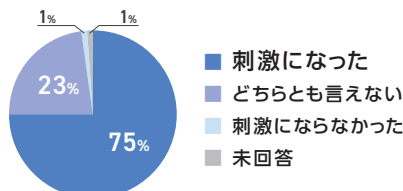
大学入学準備講座: https://clf.doshisha.ac.jp/clf/preparation_course/course.html

アンケート結果 (対面講義参加者分より)

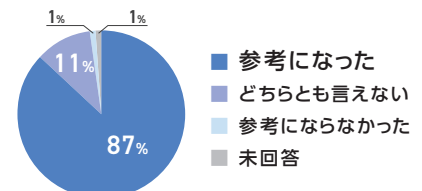
Q. 講義のレベルはいかがでしたか?



Q. 講義の内容はこれからの高校における勉強の刺激になりましたか?



Q. 将来志望する学部を選択する際の参考になりましたか?



2024年度 学生調査報告

本学では、入学時に「入学時調査」、学部1～3年次の秋に「学びの実態調査」、卒業時に「『学びのふり返し』卒業時調査」を実施しています。入学から卒業までの5時点におけるデータを収集し、学生が本学での学びについてどのように感じているか、どのような成長を遂げたかを確認するとともに、それらの結果を本学の教育・研究環境の改善に活用しています。

なお、最新年度の「学びの実態調査」の回答者には、これまでの学生自身の回答と、同学年の全学平均と学部平均とを比較することができるフィードバックをLMS上で行い、入学後の学びに関する成長実感を確認しながら、次年度以降の履修計画や今後のキャリア形成に活用することを可能にしています。



2024年度に実施した学生調査の実施概要



入学時調査

- 調査対象** 2024年度春学期入学の学部1年次生
- 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
- 回答期間** 2024年4月1日(月)～23日(火)
- 有効回答** 4,055件・63.8%
(参考: 2023年度 3,584件・55.3%)

調査結果の掲載サイト▶



学びの実態調査

- 調査対象** 2024年度学部1～3年次生
- 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
- 回答期間** 2024年11月1日(金)～21日(木)
- 有効回答** 1年次生 1,596件・25.0%
(参考: 2023年度 1,467件・22.6%)
2年次生 1,148件・17.9%
(参考: 2023年度 1,011件・15.9%)
3年次生 980件・15.5%
(参考: 2023年度 810件・13.1%)

調査結果の掲載サイト▶



「学びのふり返し」卒業時調査

- 調査対象** 本調査を実施する学部の2024年度学部卒業生
 - 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
 - 回答期間** 卒業論文提出時期～卒業式当日
- *本調査の実施主体は各学部のため、実施の有無・実施方法・回答期間などの詳細は学部ごとに異なります。

● 教育全般に対する満足度

授業や学習環境に関する満足度をいくつか尋ねています。ここでは「教育全般に対する満足度」について、入学からの学年進行による変化を追ってみました。回答を数値化し(満足している=5、どちらかといえば満足している=4、どちらともいえない=3、どちらかといえば不満である=2、不満である=1)、入学年度別に各年次における平均値を示したものが図1です。

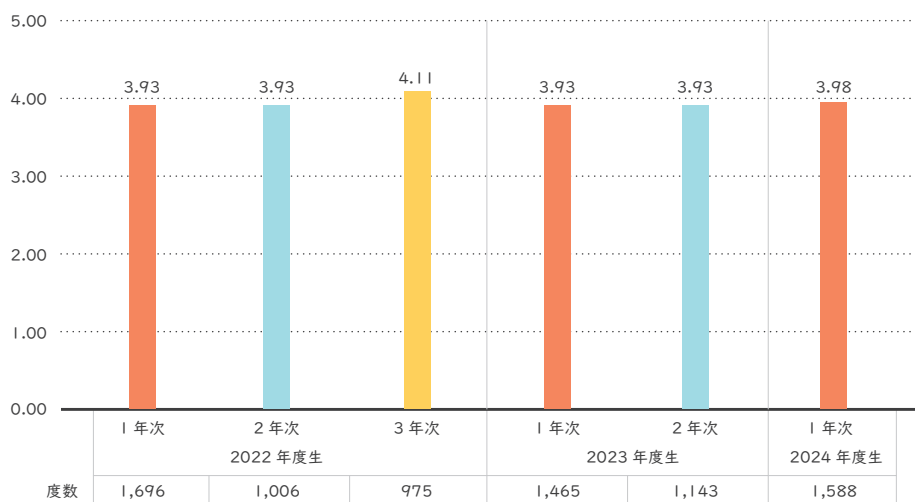


図1 教育全般に対する満足度

2022年度入学生を見ると、1年次 3.93→2年次 3.93→3年次 4.11 と、1年次から2年次にかけては横ばいですが、3年次になっただけではあるものの0.18ポイント上昇していることが分かります。また、2023年度入学生は、1年次 3.93→2年次 3.93 と横ばいとなっています。2024年度入学生の1年次は3.98と、2022・2023年度入学生の1年次時点とほぼ同じ値となっています。

満点が5であることを考えると、どの入学年度の学生においても、1年次の段階から比較的高い満足度を示しているといえます。しかし、図1の中で経年変化が確認できる2022・2023年度入学生で見ると、1年次から2年次にかけては満足度は上昇しないという共通した傾向も認められました。

●入学から現在までの学びを通じた成長－知識・スキルの獲得度

学生たちは、入学後の学びを経て、どのような成長を遂げているのか、「入学時調査」と「学びの実態調査」のデータから検証しました。集計対象とした質問項目は以下の28項目です。（調査の実施年度や対象学年によって質問項目が若干異なっているため、比較可能なもののみに掲載しています。）

各質問に対する回答を数値化し（[学びの実態調査/入学時調査の順に] 身についた/かなり身につけていた=4、やや身についた/やや身につけていた=3、あまり身につかなかった/あまり身につけていなかった（2023年度までは少し身につけていた）=2、身につかなかった/身につけていなかった=1）、各調査時点における学生個人の合計値を集計しました（最小28ポイント、最高112ポイント）。その結果を利用して、入学年度別に「入学時点で身につけていた知識・スキルの合計値の平均値」と「1～3年次の各時点における、本学での学びをつうじて身につけた知識・能力の合計値の平均値」を学年進行で示したものが図2です。なお、2022年度入学の1年次については、現在の調査とは質問項目数が異なっていたため、除外しています。

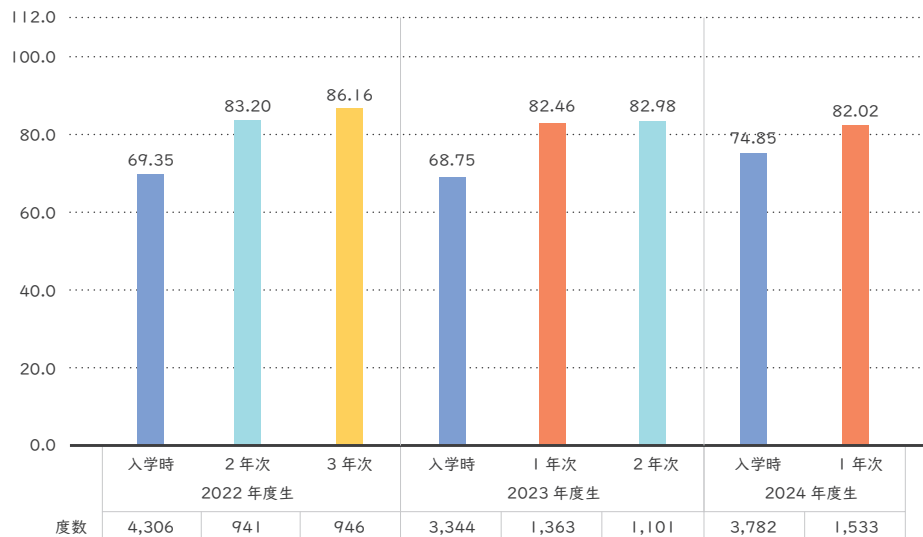


図2 知識・スキルの獲得度

質問項目

- | | | |
|---|---|----------------------|
| 1 授業の重要なポイントをノートにまとめる力 | 10 ものごとの問題点を発見する力 | 19 グローバル化による問題に対する理解 |
| 2 図書館の利用方法や文献を調べる力 | 11 プレゼンテーションの力 | 20 チームワーク |
| 3 パソコンなどを使って文書や資料を作成する力 | 12 自分の意見を筋道立てて主張できる力 | 21 リーダーシップの能力 |
| 4 一般的な教養 | 13 科学的・数量的にものごとを見る力 | 22 人間関係を構築する能力 |
| 5 専攻分野や学科の知識 <small>（入学時調査：現在所属する学科で学ぶ学問分野の専門知識）</small> | 14 ものごとに対して粘り強く取り組む力 | 23 異文化の人々と協力する能力 |
| 6 自分の意見と事実を分けて書く力 | 15 英語の能力 | 24 批判的に考える力 |
| 7 定められた形式に従ってレポートを書く力 | 16 英語以外の外国語（初修外国語）の能力 <small>（入学時調査：英語以外の外国語の能力）</small> | 25 効果的に学習する技能 |
| 8 文献や資料を読んで要点を理解する力 | 17 異文化の人々に関する知識 | 26 自ら考え行動する力 |
| 9 課題を解決する力 | 18 地域社会が直面する問題に対する理解 | 27 日本文化に関する知識 |
| | | 28 コミュニケーション能力 |

これを見ると、2022年度入学生は、入学時 69.35→2年次 83.20→3年次 86.16 となっており、入学以降3年次の秋までの間に約17ポイントの伸びを示しました。2023年度入学生は、入学時 68.75→1年次 82.46→2年次 82.98 となっており、入学以降1年次の秋までの間に約14ポイントの伸びを示しています。しかし、1年次から2年次にかけてはほぼ横ばいという結果となっています。2022年度生と2023年度生を比較すると、入学年度が異なっても、入学時から2年次にかけての伸びがほぼ同じであることが分かります。2024年度入学生は、入学時 74.85→1年次 82.02 となっており、2023年度入学生と比べると、入学時では6ポイントほど高かったものの（選択肢を「少し身についた」から「あまり身につけていなかった」に変更した影響があるものと考えられます）、1年次では逆に0.4ポイントほど低くなっていることが分かります。

全体の傾向として、どの入学年度の学生も、大学生活の中で、知識・スキルの獲得度が上昇していることが確認できます。この結果からは、学生が大学入学後の様々な学びをつうじて、成長していると言えるでしょう。

学生調査の結果を単年度の調査結果として見る場合と、同じ入学年度の学生の経年変化を確認して見る場合とで、見える景色が異なることもあります。当センターとしては、学生がより高い学習成果を得ることができるように、引き続き3つの学生調査の実施と結果の分析を行っていきます。

ラーニング・コモンズ運営状況

例年どおり、対面・オンライン両方の良さを活かして、学習相談やセミナー、各種イベントを開催し、安定的な運営を行っています。また、SNSを利用して、学習相談の周知や、ラーニング・アシスタント(LA)が行っている学習方法など、学生に興味を持ってもらえるような学びに関する情報も積極的に発信しています。

両校地とも多くの学生が利用し座席不足となっているため、良心館ラーニング・コモンズではレイアウトを変更し40席増設、ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズでは新たに24席増設いたしました。

開催報告

良心館ラーニング・コモンズ LC利用案内ツアー

ラーニング・コモンズを実際に案内し、利用方法やルールなどラーニング・コモンズに関する疑問に答える利用案内ツアーを実施しました。

日時 2024年4月16日～5月17日 ※4月30日～5月3日を除く

曜日 火曜日・水曜日・金曜日

時間 11:30～12:00 / 15:45～16:15 ※各回同じ内容



アカデミックスキルセミナー

春学期は大学生生活の過ごし方や、レポートの書き方、プレゼン発表の方法などをテーマにセミナーを実施(全24回)しました。

秋学期は、学習相談の活用方法、論理的思考力を身につけるための方法、卒業論文・卒業研究に関連したセミナーなどを実施(全24回) ※特別編「電子書籍活用法セミナー」を含む)しました。

時間 12:30～13:00(各回30分)

開催方法 対面または双方向リアルタイム配信(Microsoft Teams)



電子書籍活用法セミナー

新入生や、電子書籍を利用したことのない学生を対象に、電子書籍の使い方やラーニング・コモンズの活用方法についてのセミナーを図書館電子情報課との共催で開催しました。

※秋学期はアカデミックスキルセミナー特別編として、12月16日に開催しました。

日時 2024年4月24日 12:30～13:00

場所 (会場) ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズ プレゼンテーションコート

(中継) 良心館ラーニング・コモンズ プレゼンテーションコート



LA研修

LA春期研修

今出川

日時 2024年3月26日 13:00~17:00

場所 良心館ラーニング・commons
プレゼンテーションコート

京田辺

日時 2024年3月27日 13:00~17:00

場所 ラーネッド記念図書館ラーニング・commons
ワークショップルーム

LA秋期研修

今出川

日時 2024年9月18日 13:00~15:00

場所 良心館ラーニング・commons
プレゼンテーションコート

京田辺

日時 2024年9月20日 13:00~15:00

場所 ラーネッド記念図書館ラーニング・commons
ワークショップルーム

LA企画イベント

研究のすゝめ(対象:本学学生・教職員)

今出川校地および京田辺校地の専門分野が異なるLAが登場し、大学および大学院での学習の経験や、研究の魅力について語るイベントを開催しました。

第1回

日時 2024年12月9日12:20~13:00

場所 良心館ラーニング・commons
プレゼンテーションコート

第2回

日時 2024年12月11日12:20~13:00

場所 ラーネッド記念図書館ラーニング・commons
プレゼンテーションコート

その他

Python勉強会

ラーネッド記念図書館ラーニング・commonsのアカデミックサポートエリアでは、さまざまなプログラミング言語に関する学習相談が多く寄せられることから、京田辺校地勤務のLAが自主的にプログラミング言語のひとつであるPythonの勉強会を企画しました。

ふだん研究などでPythonに触れる機会のないLAも積極的に参加していました。

2024年6月から12月にかけて、月1回のペースで計5回実施しました。



各種発行者

おすすめ電子書籍特集2024年度版

LAがおすすめする電子書籍を一覧にまとめました。
QRコードから電子書籍にアクセスすることができます。

ラーニング・commonsHP「発行者」に掲載しています。

発行者: <https://lc.doshisha.ac.jp/lc/media/index.html>



施設利用状況

今出川校地良心館ラーニング・commons（今出川LC）全体の2024年度月別の利用者状況をまとめたものが図1です。8月9月こそ前年度を下回ったものの、それ以外の月では増加傾向であり、2025年1月末までの累計を見ても前年度と遜色のない利用状況であることがわかります。8月9月については、2024年度から新学年暦となり、夏期休暇期間が長くなったことが影響しているのではないかと思います。

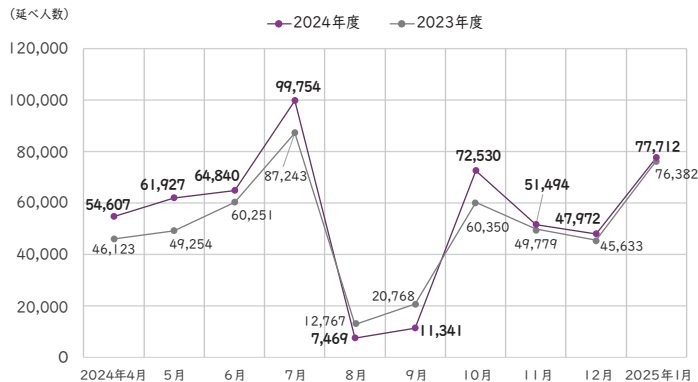


図1 今出川LC利用者数推移【月別】(2025年1月末時点)

学習相談利用状況

今出川校地良心館ラーニング・commonsおよび京田辺校地ラーネット記念図書館ラーニング・commonsには、対面やオンラインで大学院生スタッフのラーニング・アシスタント(LA)や教職員に学習相談ができるアカデミックサポートエリア(今出川ASA、京田辺ASA)があります。そのエリアの2025年1月末時点での利用状況を報告します。

まず、2024年度(2025年1月末時点)の両校地ASAおよびオンラインでの学習相談件数は、今出川ASAが984件(前年度比(2024年1月末時点)34件減)、京田辺ASAが1,117件(前年度比818件減)、オンラインが36件(前年度比3件増)でした。

次に、2024年度(2025年1月末時点)の学習相談件数を前年度の同時期と比較して以下のとおり「学年別(図2)」、「月別(図3)」、「相談内容別(図4)」にまとめました。なお、相談内容別については、1人の相談に複数含まれることがあるため相談者数より多くなります。

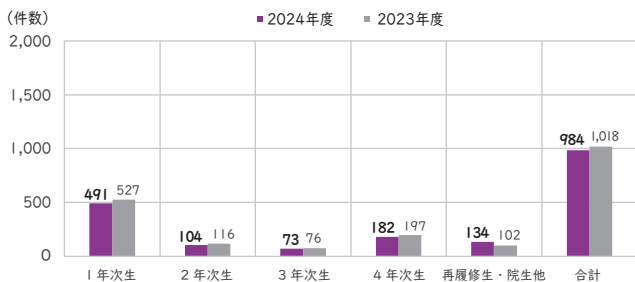


図2-① 今出川ASA学習相談件数【学年別】(2025年1月末時点)

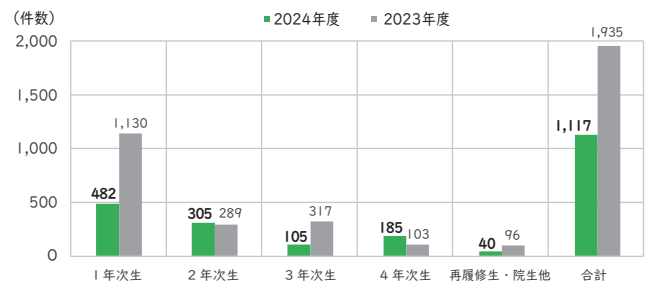


図2-② 京田辺ASA学習相談件数【学年別】(2025年1月末時点)

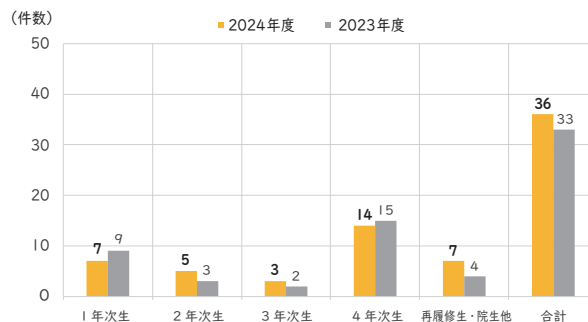


図2-③ オンライン学習相談件数【学年別】(2025年1月末時点)

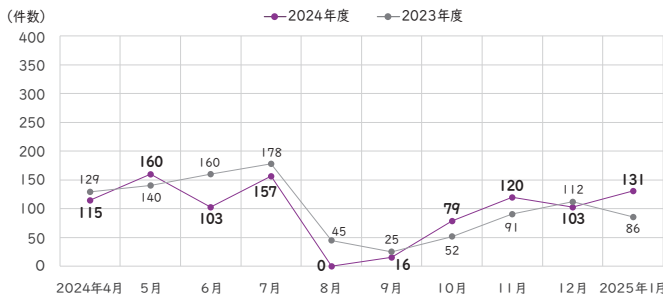


図3-① 今出川 ASA 学習相談件数【月別】(2025年1月末時点)

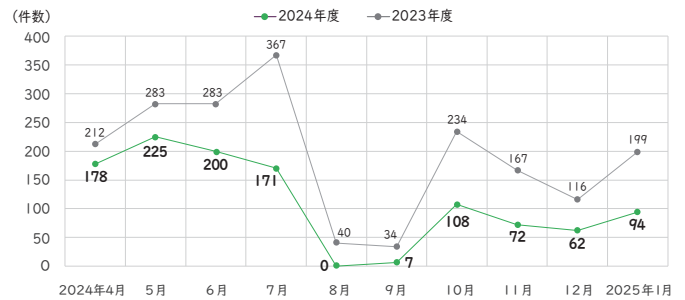


図3-② 京田辺 ASA 学習相談件数【月別】(2025年1月末時点)

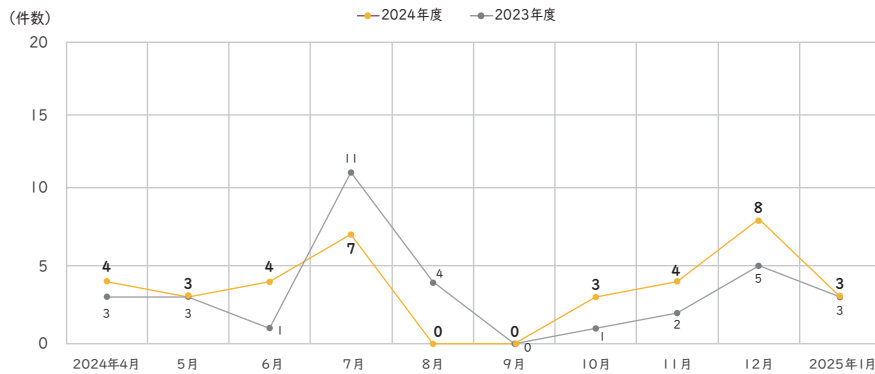


図3-③ オンライン学習相談件数【月別】(2025年1月末時点)

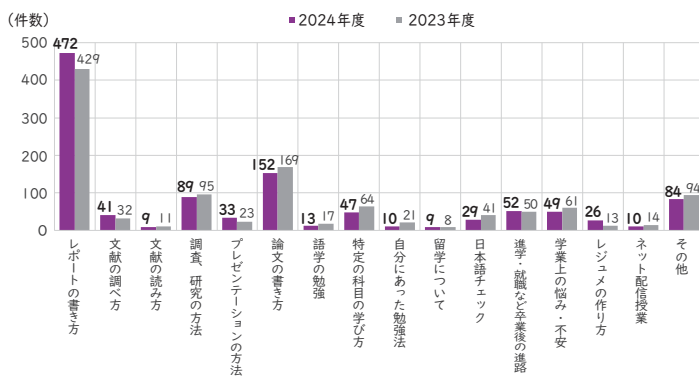


図4-① 今出川 ASA 学習相談件数【相談内容別】(2025年1月末時点)

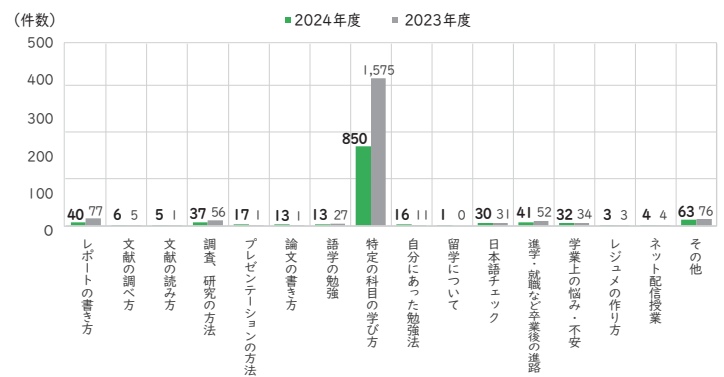


図4-② 京田辺 ASA 学習相談件数【相談内容別】(2025年1月末時点)

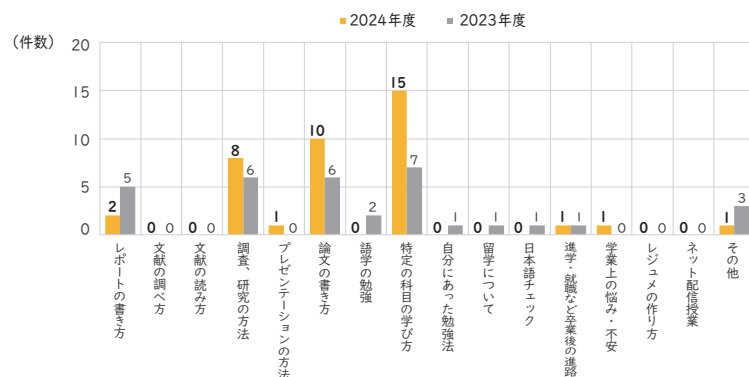


図4-③ オンライン学習相談件数【相談内容別】(2025年1月末時点)

以上、数値やグラフで示された通り、今年度から新学年暦となり学生が大学に来る期間が例年と異なるものの、LC利用者数は前年度より増加傾向にありました。一方、学習相談件数は両校地ともに減少傾向にあり、特に1年次生の減少幅が大きかったことがわかりました。また、両校地の学習相談の記録から、卒業論文に取り組む時期に初めて学習相談ができることを知りASAを訪れた学生も少なくないことが確認できました。

今年度の学習相談利用減少傾向について、現時点で明確な要因は不明ですが、我々ができることとして、次年度はLCを利用している学生が早い時期からLCで学習相談もできることを知り必要に応じて気軽にASAを訪れてくれるよう、春学期からの学習相談広報の方法を見直していきたいと考えています。

大学教育の今

進化する学習の場

大学の長い歴史において、比較的最近導入された学内組織の一つとして、ラーニング・コモンズが挙げられます。ラーニング・コモンズは図書館の自習スペースの発展形として始まったと聞いていますが、本学の今出川校地では図書館から離れた良心館に、贅沢に空間を利用した学びの広場があります。

理系の学部4年生や大学院生は、研究室やゼミ室に自分専用の机があり、自習の場には困りません。また、そこには指導教員が頻繁に出入りし、先輩や同級生もいて、情報通信機器や学術情報が整った環境で、活発なディスカッションも行われていると思います。一方、文系の学部生や理系の3年生以下の学部生が利用できる自習の場には限りがありました。図書館の自習スペースは、今も沈黙思考するのに最適な場の一つですが、収容数に限りがあります。ラーニング・コモンズでは、声を出してディスカッションすることも許されており、議論する他の学生グループの様子が見え、またその声も聞こえる刺激ある環境となっています。

本学のラーニング・コモンズには、文系理系の様々な研究科に所属する大学院生が、ラーニング・アシスタントとして勤務しており、彼らを統括し、支援する経験豊かで多才な教職員も常駐しています。大学院生も教職員も相談員以上の役割を担っており、彼らの能力と尽力により、この魅力的な物理的空間を真に価値ある学習環境にできています。2023年度は、良心館ラーニング・コモンズだけで、学部生を中心に延べ約54万人の利用（入室ゲートの入室ログ件数）があり、京田辺ラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズと合わせて、約3000件の学習相談がありました。総勢約30名の大学院生のラーニング・アシスタントが交代で勤務しているとはいえ、そこで個別指導塾のような各科目の個別補習指導を丁寧に行えるわけではありませんが、活気ある自学自習の場と学習支援の場となっています。

地域、国あるいは世界の将来を担う人物を育成する本学において、ラーニング・コモンズはすでに重要な学習の場としての役割を担っています。この役割を担い続けられるように、また固定観念に縛られることなく、この新しい学習の場がさらに進化できるように寄与していきたいと思っています。

学習支援・教育開発センター所長 馬場 吉弘

